

H28年度全国農業総産出額・生産農業所得は増加

しかし直近の生産資材の動静は原料高で推移

農水省は昨年末に28年度の農業総産出額及び生産農業所得を発表した。平成に入って産出額と農業所得は緩やかな減少傾向にあったが、平成27年以降は増額に転じている。農業総産出額ではコメ、野菜、畜産で生産の進展により増額に転じ前年に比べて4,046億円増加の9兆2,025億円となった。コメの産出額は食の多様化や少子高齢化の影響で近年では毎年8万トン前後需要減があるものの、飼料用米への転作や全国的な主食用米の作付超過が解消され、供給が需要を上回ったことにより単価が上昇したことが主因と見られる。野菜では業務用においても国産野菜使用の高まりもあり近年の産出額は2兆円台で堅調に推移しているようだが、秋の天候不順が影響し年末に葉菜類や根菜類中心に価格が上昇したことが起因しているようだ。

生産農業所得は農水省の農業物価統計調査によると、農業総産出額の減少や資材費の上昇により減少傾向が続いていたが、平成27年以降増加に転じ28年度は前年比4,666億円増加の3兆7,558億円となった。飼料費や肥料費、高熱動力費等の主要な生産資材費が減少したがことも要因とみられる。生産者にとってはこの傾向が継続すれば良いのだが、飼料や肥料、動力費の原材料の多くは海外からの輸入に依存しており世界情勢なども影響し最近では原料高の装いとなっている。飼料では米国において昨年トウモロコシは豊作であったものの、本年の1～3月期の価格決定時には為替が円安に振れたためトウモロコシ・大豆粕の3か月間における配合飼料価格は前期に比べ値上げ、また有機質肥料原料である菜種や油粕も同期は値上げとなっている。動力費においては一般財団法人日本エネルギー経済研究所調べで、農業用として利用するA重油全国平均価格は平成28年3月の1L当たり44.4円が最近の底値であったが、昨年12月は1L当たり66.2円となっている。この原因は、OPECだけでなく非OPEC加盟国も含めて原油を減産しているためだ。

焦点となる肥料原料に関して、尿素については11月のインドが入札をキャンセルして一時下落したものの12月以降はインドやブラジル、東南アジアの需要活発化や中国での環境規制を端に発した生産調整の影響でタイトな状況が継続しており値上げに反転している。更に燐については中国が他国への切替を恐れたのかリン鉱石の輸出関税を35%から10%に下げたものの、アンモニアや硫黄などの原料価格の上昇や生産2位のアメリカまでも一部の工場停止を発表したことにより燐安市況は上昇し需給タイトな状況が続いている。

また肥料に影響を与えるものとして物流問題もある。運送業界ではトラックの需給が恒常的にタイトなだけでなく、運転手の労働環境是正のため運賃の転嫁も起きており、製品価格への影響は避けられない。メーカー各社は原料高の製品安状態で当用期を迎えようとしており経営環境は引き続き厳しい。その中で本年は当用志向の高まりだけでなく、全国的に異常に寒い冬となっており1月末までの荷動きは例年に比べても芳しくない。このような年は暖くなる2月下旬から一気に受渡が始まるため、出荷工場にトラックが殺到するという事態も懸念される。オーダーが既に確定しているものは早め早目の手当をお願いしたい。

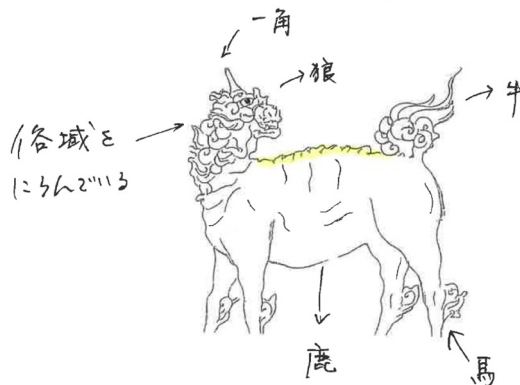


太宰府天満宮と麒麟

学問の神、誠心（まこと）の神として世の崇敬を集めている太宰府天満宮についてご紹介したい。太宰府天満宮は、皆さんよくご存じの菅原道真公の御墓所の上に社殿を造営している全国的にも非常に珍しい廟建築の天満宮である。本殿を参拝するときに渡る太鼓橋が3橋あり、過去・現在・未来を通り、手水舎にて清め参拝するのである。太鼓橋がかかる池は「心字池」といわれ、上から見ると心の字の形をしている。地元伝説では、この太鼓橋を「男女ふたりで渡ると別れてしまう」というものがあるのだが、真相は確かではない。

本殿右前にあるのが、「飛梅」で季節に花を咲かせ白梅の香りが漂う。道真公は55歳のときに右大臣にまで昇進し57歳で従二位を授かったが、昌泰四年（901）正月二十五日時の左大臣藤原時平の讒言（ざんげん）（事実を偽り他人を悪くいうこと）により太宰府へ左遷させられた。京都御出発に際して紅梅殿の梅に別れを惜しまれ詠まれた和歌が、「東風吹かば匂ひおこせよ梅の花 あるじなしとて春な忘れそ」である。この梅が道真公を慕って飛来したのが本殿前の「飛梅」と言い伝えられている。

境内には麒麟像があり、今回はこの像についてご紹介したい。本来は、一対の麒麟像（雄雌）があったようだが、雌像は、世界大戦下の金属抛出時に政府に差し出されたようで現在は1体の麒麟像がある。この麒麟像は、聖人が誕生した祝いとして降りてくるとされている空想上の動物で、顔は、狼、胴体は、鹿、足は、馬、尾は、牛とされており（右絵ご参照）、俗域をにらんで厄除けしている。一角獣であり、麒麟麦酒のマークがこの麒麟像を元にしての噂もある。確かに明治・大正時代の麒麟麦酒の商標は類似している。真偽のほどは確かではない。



天満宮は大樟の木があり、社務所横にある木は、樹齢千五百年というから天満宮が造営される前からあることになる。幹と枝ぶりはかなりすごく樹の気なるものを感じる。新緑の季節が日に日に色が変わって楽しめるとか。お正月・受験シーズンに参拝する機会が多いが、新緑の季節にはぜひ出かけてみたいものだ。（福岡支店）

【訃報】 肥料農産新報社主 代表下島一郎氏 ご逝去

肥料関連情報の専門新聞「肥料農産新報」社主の下島一郎氏が去る2月1日に急逝された。享年84歳。肥料農産新報といえば、新聞発行の他に全国主要肥料消費高表や黄色い背表紙でお馴染みの全国肥料商名簿がある。先代の下島四郎氏により大正15年11月15日に日刊肥料専門紙「肥料日報」として第1号を発行、92年目の本年1月25日付第2,568号の歴史をもって幕を閉じることになった。また、東京肥料研究会（昭和5年設立）では肥料業界の栄枯盛衰を知る重鎮として活躍され、精力的に肥料メーカー・商社の若手指導にも努められた。世話になった方々も多数いらっしゃる筈だ。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

冬季オリンピックが開幕し、毎日熱戦が繰り広げられていますね。今回は時差がないので、寝不足にもならず様々な競技を見られるのが楽しいです。東京オリンピックもあと二年後に迫り、東京がどのような盛り上がりになるのか楽しみになってきました。

編集事務局：南部、助川

電話：03-5275-5511/E-mail：macjournal@mcagri.co.jp URL <http://www.mcagri.jp>